

平塚市自殺者数推移

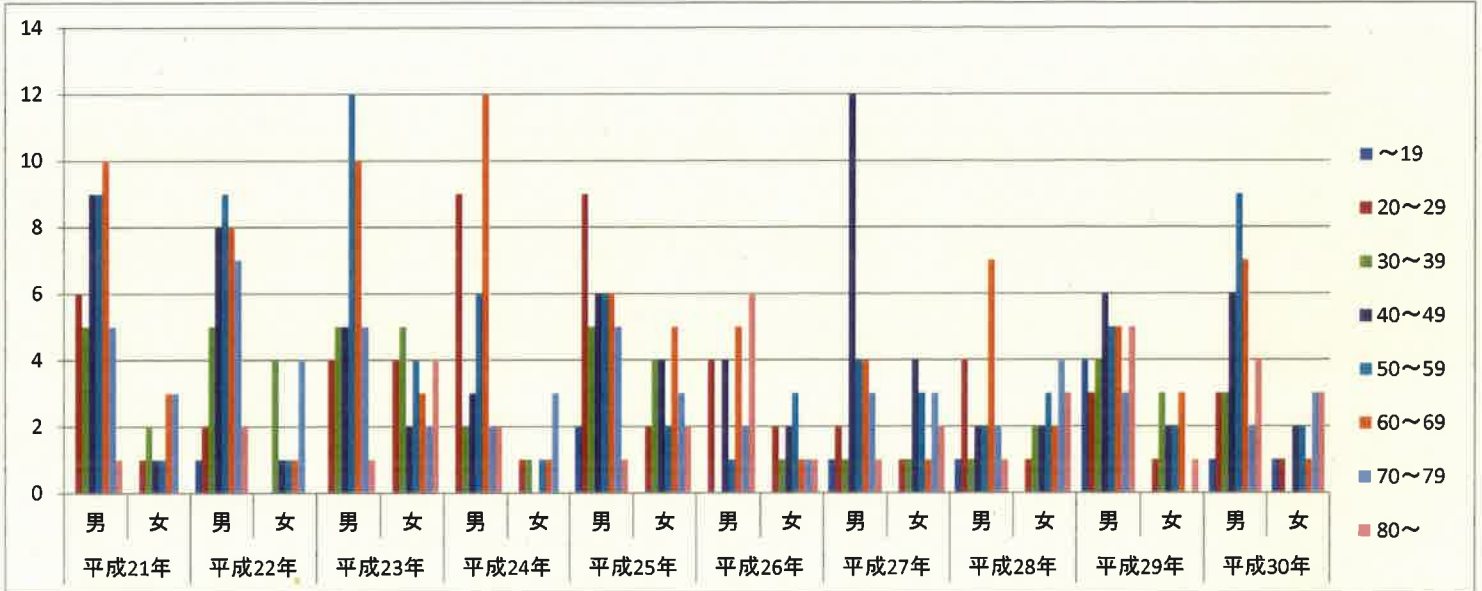
1 自殺者年推移 内閣府発表データ(警察庁自殺統計ベース)をもとに作成

年(1月～12月)統計

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
総数	56	53	66	43	62	33	43	37	47	48
自殺率	21.8	20.6	25.7	16.8	23.9	12.7	16.7	14.4	18.26	18.63
人口	257,427	257,387	257,248	256,688	259,640	259,171	258,065	258,273	258,141	258,381

2 年代別自殺者推移 内閣府(～H28年度)及び厚生労働省(H28年度～)発表データ(警察庁自殺統計ベース)をもとに作成

年代	平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
～19	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	4	0	1	1
20～29	6	1	2	0	4	4	9	1	9	2	4	2	2	1	4	1	3	1	3	1
30～39	5	2	5	4	5	5	2	1	5	4	0	1	1	1	1	2	4	3	3	0
40～49	9	1	8	1	5	2	3	0	6	4	4	2	12	4	2	2	6	2	6	2
50～59	9	1	9	1	12	4	6	1	6	2	1	3	4	3	2	3	5	2	9	2
60～69	10	3	8	1	10	3	12	1	6	5	5	1	4	1	7	2	5	3	7	1
70～79	5	3	7	4	5	2	2	3	5	3	2	1	3	3	2	4	3	0	2	3
80～	1	0	2	0	1	4	2	0	1	2	6	1	1	2	1	3	5	1	4	3
小計	45	11	42	11	42	24	36	7	40	22	22	11	28	15	20	17	35	12	35	13
	56		56		66		43		62		33		43		37		47		48	



【平塚市の10年間の傾向】警察統計(自殺日・住所地)より、平成21年～30年の合計488人

○全体的には減少傾向とれなくもないがここ数年増減を繰り返しており、減少しているとまでは言えない。

○男女比 7:3

○年齢別 60代(95人)、50代(85人)、40代(81人)、70代(62人)、20代(60人)、30代(54人)の順
20代は12.3%

○同居人 あり 69.9%

○職業別 有職(35.2%)、無職(63.5%)、不詳(1.2%)

(内訳:被雇用者27.7%、自営業・家族従事者7.5%、年金雇用保険等生活者17.6%、主婦11.3%、その他無職者27.7%等)

○原因動機別 健康問題、経済・生活問題、家庭問題、勤務問題

○未遂歴 あり 20.9%

本市の自殺の現状（地域自殺実態プロフィール等より）

自殺総合対策推進センター（JSSC）から、本市の平成 25 年から平成 29 年までの自殺者数合計 222 人（男性 145 人、女性 77 人）のデータを分析した「地域自殺対策プロフィール（2018）」が提供され、次のような特徴等が示されました。

（1）国から示された自殺対策の重点対象

国から示された本市の自殺対策の重点対象は、次のとおりです。

高齢者・生活困窮者・勤務者（勤務・経営）

下図「平塚市の主な自殺の特徴」は、自殺者の上位 5 区分の性別・年代等の特性と「背景にある主な自殺の危機経路（※付表 1）」を参考にした自殺者の主な特徴をまとめたものです。

■ 平塚市の主な自殺の特徴（自殺日・住居地、H25～H29 年合計）

上位 5 区分	自殺者数 5 年計	割合	自殺率* (10 万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1 位:男性 60 歳以上 無職 同居	25	11.3%	26.5	失業（退職）→生活苦+介護の悩み（疲れ）+身体疾患→自殺
2 位:男性 40～59 歳 有職 同居	23	10.4%	16.4	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
3 位:女性 60 歳以上 無職 同居	21	9.5%	13.9	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
4 位:男性 60 歳以上 無職 独居	18	8.1%	105.0	失業（退職）+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺
5 位:女性 40～59 歳 無職 同居	16	7.3%	67.1	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺

※自殺死亡率の母数（人口）は平成 27 年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。

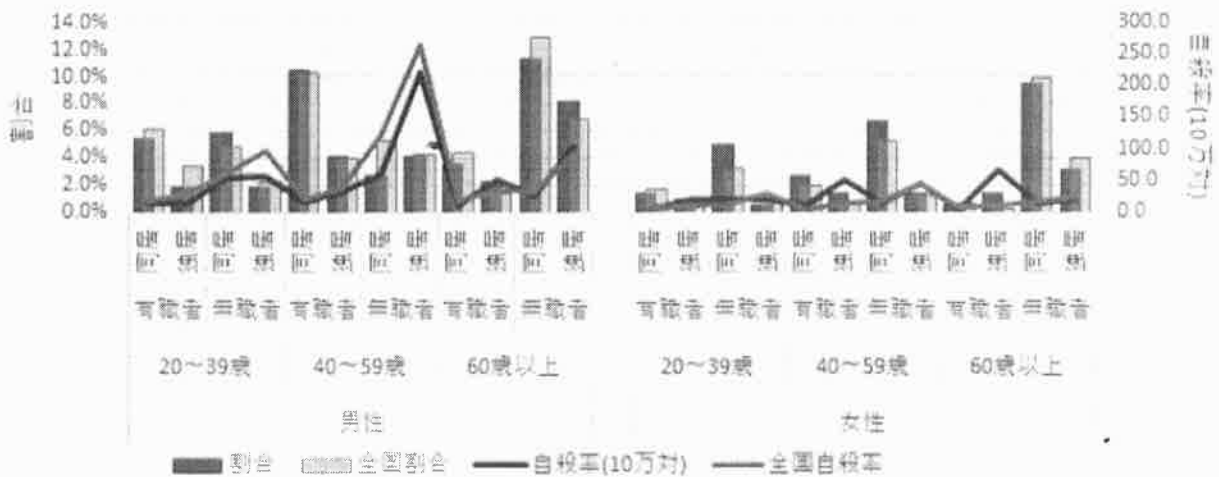
※※「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書 2013（ライフリンク）を参考にした（詳細は付表の参考表 1 参照）。

（2）全般的な状況

■ 自殺者数年推移 警察統計（平成 25 年～29 年）

	H25	H26	H27	H28	H29	合計	平均
自殺統計 自殺者数 (自殺日・住居地)	62	33	43	37	47	222	44.4
自殺統計 自殺率 (自殺日・住居地)	23.9	12.7	16.7	14.4	18.3	-	17.2

■ 地域の自殺の概要（グラフ）



(3) 勤務・経営関係資料

■ 有職者の自殺の内訳（自殺日・住居地、H24～28 合計）

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	14	16.9%	20.3%
被雇用者・勤め人	69	83.1%	79.7%
合計	83	100.0%	100.0%

労働者 50 人未満の小規模事業所ではメンタルヘルス対策に遅れがあることが指摘されており、地域産業保健センター等による支援が行われている。自殺対策の推進の上でも、地域の関係機関との連携による小規模事業所への働きかけがのぞまれる。

(4) 子ども・若者関連資料

- 10歳代から50歳代まで死因の第1位が自殺（神奈川県人口動態調査）。
- 18歳以下の自殺者数は、長期休業明け直後に増える傾向がある（自殺対策白書）。

(5) 高齢者関連資料

■ 60歳以上の自殺の内訳（自殺日・住居地、H24～29 合計）

性別	年齢階級	同居人の有無 (人数)		同居人の有無 (割合)		全国割合	
		あり	なし	あり	なし	あり	なし
男性	60歳代	14	13	15.9%	14.8%	17.1%	10.8%
	70歳代	10	5	11.4%	5.7%	15.1%	6.3%
	80歳以上	9	5	10.2%	5.7%	10.4%	3.6%
女性	60歳代	9	3	10.2%	3.4%	9.7%	3.2%
	70歳代	9	2	10.2%	2.3%	9.1%	3.8%
	80歳以上	4	5	4.5%	5.7%	7.4%	3.5%
合計		88		100%		100%	

■参考 地域の自殺の特徴について

(付表1) 生活状況別の自殺の背景にある主な危機経路の例

生活状況				背景にある主な危機経路の例
男性	20～39歳	有職	同居	職場の人間関係／仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
			独居	①【正規雇用】配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺／②【非正規雇用】(被虐待・高校中退)非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺
	無職	同居	①【30代その他無職】ひきこもり+家族間の不和→孤立→自殺 ②【20代学生】就職失敗→将来悲観→うつ状態→自殺	
		独居	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺	
	40～59歳	有職	同居	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
			独居	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺
		無職	同居	失業→生活苦→借金+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
60歳以上	有職	同居	①【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→自殺 ②【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→自殺	
		独居	配置転換／転職+死別・離別→身体疾患→うつ状態→自殺	
	無職	同居	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺	
		独居	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺	
女性	20～39歳	有職	同居	離婚の悩み→非正規雇用→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①非正規雇用→生活苦→借金→うつ状態→自殺 ②仕事の悩み→うつ状態→休職／復職の悩み→自殺
		無職	同居	DV等→離婚→生活苦+子育ての悩み→うつ状態→自殺
			独居	①【30代その他無職】失業→生活苦+うつ状態→孤立→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→就職失敗+うつ状態→自殺
	40～59歳	有職	同居	職場の人間関係+家族間の不和→うつ状態→自殺
			独居	職場の人間関係+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	近隣関係の悩み+家族間の不和→うつ病→自殺
			独居	夫婦間の不和→離婚→生活苦→うつ状態→自殺
	60歳以上	有職	同居	介護疲れ+家族間の不和→身体疾患+うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→うつ状態→自殺
		無職	同居	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
			独居	死別・離別+身体疾患→病苦→うつ状態→自殺

主な危機経路の例は自殺実態白書 2013(ライフリンク)を参考にした。